

第25回全国大会(高知オンライン) 研究討論会

9月1日(木)

15時00分～16時30分 会場1

研究討論会1 『障害のある人の権利を保障する社会のありようを考える』

障害のある人の権利に関する特別研究委員会

当特別研究委員会は、障害のある人の「権利」の現状を考えるため、2019年度から対応指針部会と事例分析部会に分かれて活動してきた。対応指針部会では、国交省、内閣府・厚労省・文科省・経産省に調査を行い、障害者差別解消法の対応指針と権利条約との整合を分析したところ、障害者権利条約の精神と比べてあいまいな記述がみられ、相談対応において国と自治体の連携が弱いなどの問題が明らかとなった。事例分析部会では、東京都、横浜市、宇部市、旭川市に寄せられた申し立て事例と、各4都市の相談体制について調査を行った結果、差別の実態は広く、根深く、また都市ごとに対応体制が共通していないことが明らかとなった。今回の研究討論会では、権利条約について当事者団体が国連に提出したパラレルレポートと、当委員会の調査結果を用いて、権利条約が述べている障害のある人の権利をベースにした平等な社会参加の実現のために何が必要かを考えたい。

<登壇者予定者> 菅原麻衣子(東洋大学ライフデザイン学部)、川内美彦(東洋大学人間科学総合研究所)、他1名予定

9月2日(金)

9時00分～10時30分 会場1

研究討論会2 『人にやさしい情報環境のこれまでとこれから[その1:課題提起]』

人にやさしい情報環境特別研究委員会

本研究委員会は、多様な人に求められるやさしい情報を提供する環境の実現をめざしています。視覚中心から「五感」を活用したサイン環境デザインにより「多様性」や「地域性」に応え、高度化していく情報手段として、さらに「ICT」などの先端技術を活用することで、よりいっそう安全で快適な移動支援をだれに対してもやさしく可能とするユニバーサルデザインによる情報環境づくりです。当日は4名の方に「人にやさしい情報環境のこれまでとこれから」というテーマから、それぞれの立場の人々の「困りごと」に対し、すでにできていることやできていないことの実態に着目し、「過去」から「現在」のこれまでの状況、そして「未来」のこれからの課題や展望について、課題提供をするとともに議論を深めていければと思います。今回の討論会は「その1:課題提起」としての討論を行い、次回「その2:実現への提案」へとつなぎ、本委員会の活動を総括します。

<登壇者予定者> 田中直人(島根大学)、老田智美(大和大学)、柳原崇男(近畿大学)、久保雅義(兵庫県公立芸術文化観光専門職大学)、須田裕之(筑波技術大学名誉教授)、池田典弘(池田技術士事務所)、北川博巳(近畿大学)、土田義郎(金沢工業大学)

13時15分～14時45分 会場2

研究討論会3 『車椅子ユーザーの子育て環境の現状と課題』

子育て・子育てまちづくり特別研究委員会

障害の有無にかかわらず、子どもの育ちを支えるための環境づくりは重要である。特に、授乳室やおむつ交換台などの子育て環境の多くは障害のない親を対象としたものが多く、障害のある当事者が子育てをする環境は十分とは言えない。一方、障害者総合支援法では、親が十分に子どもの世話ができないような場合、「育児支援」として居宅介護(家事援助)等の業務に含まれると言及されている。当事者の中には、物理的環境を整えることで育児を支援・参加ができる場合もあり、ハードとソフトの両面から改めて子育て環境を検討する必要がある。

今回は、車椅子を使用する当事者から子育てに関する経験談などを伺い、子育て・子育てまちづくり環境が障害のある当事者の子育て支援へとつながる視点を議論する。

<登壇者予定者> 鈴木太(愛媛頸髄損傷者連絡会)、今田裕子(車椅子ユーザー)、植田瑞昌(日本女子大学家政学部)

13時15分～14時45分 会場3

研究討論会4 『わたしたちの声を「まち」とどけようー市区町村の政策決定過程への多様な当事者の参加をめざす試み』

インクルーシブリサーチ特別研究委員会

インクルーシブリサーチ特別研究委員会は、知的障害者の調査研究への参画をめざす「インクルーシブリサーチ」をヒントに、まちづくりのプロセスに多様な当事者が参加することをめざしています。

この討論会では、障害福祉計画をはじめとする政策を決めるプロセスへの参加をめざす試みを紹介し、具体的な工夫や考え方について、当事者をまじえて話し合いたいと思います。

<登壇者予定者> 笠原千絵(上智大学)、大森梓・百瀬賢太郎・飯島賢太郎・原田奈津紀(NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会)

15時00分～16時30分 会場2

研究討論会5 『合理的配慮の現在～高等教育機関をめぐる～』

国家資格等に関連する合理的配慮特別研究委員会

コロナ禍の影響が続いている教育現場の状況に鑑み、昨年引き続き、高等教育及びその入学試験において合理的配慮がどのように進められているか、とくにコロナ禍の影響について、全国的な状況や具体的な支援の状況についてご報告いただき、参加者とともに、今後、必要な方策について検討する。

<登壇者予定者> 南谷和範(政法人大学入試センター試験技術研究部門教授)、殿岡翼(全国障害学生支援センター代表)